

安上がりの学校配置では、子どもの成長発達を保障できない。

道立高校への特別支援学校併設の動きを考える

『えがお署名』『特別支援学校設置基準策定を求める請願署名』にご協力を

**強まる！
公立高校への
学級削減圧力！**

新学期が始まり、子どもたちは元気に学校生活を送っていることと思います。しかし、札幌・石狩圏では子どもたちの通う学校配置をめぐって様々な課題が山積みです。

今春の札幌石狩圏の公立高校入試では、入学定員を満たさずに2次募集を行った普通高校が多く、4校で1学級減となり新学期を迎えました。4月26日に第1回石狩学区の公立高等学校配置計画地域別検討協議会が開催されますが、昨年同様に私立高校の理事者から、公立高校配置計画策定をもっと厳しく行えと、公立高校のいっそうの学級減を求める圧力が強まること予想されます。

**深刻化する
特別委支援学校の
過密・狭隘化！**

一方、昨年度の道議会では党派を問わず様々な議員が、増加しつつある特別支援学校への入学希望者への対策や深刻さの度合いを増している校

舎狭隘化へ対応を取り上げ質問しました。高教組札幌支部は昨年度、校舎改修中の伏見支援学校を見学しましたが、傾斜地に建設された旧札幌高等盲学校の校舎を再利用していることから他の特別支援学校に比べ狭く、増設のスペースもありません。特別教室を次々に普通教室へ転用するの教育課程編成にも困難が多く、用意できる給食の食数が限界を超え、給食のあたらない教職員でしのいでいます。他の特別支援学校でも同様に過密・狭隘化の深刻さは増す一方です。道教委では、「他の道の有の既存施設等の活用など、可能な限り早期に対策を講じ、改善・充実を図っていく」などの答弁をしています。決して「新設」とは言わずに安上がりの方策しか提示しない道教委の姿勢は、高橋道政の負の遺産と言えます。

**安上がりでなく
生徒の発達保障を
最優先に！**

石狩圏では「既存施設」の利用例としては、伏見支援学校の他に稲西高校跡地に星置養護学校ほしみ高等学園分校、

拓北高校跡地にあいの里高等支援学校などの例があります。それらは高校統廃合を強行した後、在籍する生徒がいなくなった校舎を整備・再利用したものです。しかし現在、道教委が画策しているのは、現に生徒が通学している札幌市内の道立高校への特別支援学校併設です。急激な特別支援学校入学希望者の増加、道議会からの高まる圧力に道教委が応えられなくなっています。校舎が空くまで待てなくなっている道教委の焦りが見てとれます。

この先、公立高校の学級減が推しすすめられるとすれば、このような形での併設の可能性が高まります。当該高校としては、現在の施設設備を前提条件に教育課程を編成しているわけですから、「空き教室など存在しない」わけで、教育実践上に様々な制限が加えられてしまいます。生徒たちの教育条件が切り崩されてしまつと言えます。一方、特別支援学校側では一定程度過密・狭隘化の解消がすすみますが、「チャイムの音や校内放送に過敏に反応してパニックを起こす生徒」など障害の重い生徒をかかえおり、新しい環境に慣れるまでに乗り越えるべき課題が多すぎます。移動

2つの署名にご協力ください！

教育予算が足りません。問題の根源はここにあります。高額兵器の爆買いをせずに教育や福祉に予算を回す政治こそが求められます。生徒減少期だからこそ、学級減や統廃合によらずに、少人数学級を前進させてゆきといた教育を実現したい。特別支援学校設置基準を策定し、新設の学校を設置したい。消費税増税にたよらないで教育予算を増やしたい。これらの願いを実現するために、札幌支部は2つの署名、「えがお署名」と「特別支援学校設置基準策定を求める請願署名」をすすめていきます。

すべての子どもたちの発達を保障する立場から、皆さんのご協力を呼びかけます。

つぶやき

天皇の代替わりの日程が決まっつてから……

天皇の代替わりが目前だ。平成を振り返る特番や皇室関連報道がメディアを賑わし、新元号発表後には「令和フィバー」なる言葉が飛び交う。元号で時を管理する思考回路がない者には何とも居心地が悪い。しかし、この違和感を個人の思想の問題と片付けてはいけない。やたらと「新しい時代」の到来を強調することが、現在の政治・経済・社会の諸課題やその原因を覆い隠し、歴史認識を歪めかねないからだ。統一地方選から参院選へと続く時期の「熱狂」に対し強い危機感を抱かざるをえない。ここはいったん頭を冷やし、この三十年間の現実を、日本国憲法の理念と平和の生存権・平和主義(前文、第9条)、幸福追求権(第13条)、生存権(第25条)を指標に検証することが重要だ。

- 「経済成長率」(1991〜2016年度)「平均1.0%(高度成長期9.1%)」
- 「非正規雇用比率」1990年20.2%→2017年37.3%。●「年収200万円以下の労働者」12年連続1000万人超(2007〜17年)。●「生活保護世帯」1989年度66万→2017年164万。●「合計特殊出生率」1989年1.57→2000年1.26。●「自殺者」14年連続3万人超(1998〜2011年)。●「国債発行残高」1989年度161兆円→2018年度883兆円。●「大企業の内部留保」1992年度124兆円→2017年度347兆円。●「消費税収の累計」(1989〜2018年度)「372兆円(1989年度比の法人3税減収累計291兆円)」。
- 「自衛隊の海外派遣(PKO特措法)」のべ1万人超(1992年〜)。●「福島県の

避難者」2012年5月16.5万人→2019年1月4.2万人。●「災害関連死」阪神・淡路大震災以降、約5000人。ここに示した現実、主権者・国民が、「憲法尊重擁護の義務」(憲法99条)を負う者に、その義務を果たさせなかった結果だ。この三十年間、衆参各10回、合計20回の国政選挙があった。投票率の平均は衆院選62.5%、参院選55.6%だ。「隠蔽」「改竄」「フェイク」「忖度」が蔓延する時代、うつかり「熱狂」に飲み込まれてはいけない。憲法を「改正」して「新しい時代」をむかえたがっている人々がいる。だから今、憲法を携え現実を見据え「クール」に思考し行動しよう。ポロっと生きている場合ではない。「新しい時代」を切り拓くのは、いつだって主権者・国民なのだから。(飯塚正樹 江別高校)



恒例の大歓迎会

今年こそほこれやる！ 広げてみました『大風呂敷・小風呂敷』



札幌支部では恒例となった支部歓迎会。4月6日に、新採用者の先生はじめ、まだ高教組に参加していない初々しい先生たち、異動転入してきた先生を迎えて総勢40名の参加で楽しく時間を過ごしました。



から、積極的に今年の抱負や目標を語っていただきまし。色とりどりの思いの詰まったステキな「風呂敷」話をたくさん聞くことができました。なかには本物の風呂敷を広げた方もいましたが、広げた風呂敷は憲法9条の風呂敷でした。夢や希望を語り合う時、話す方も聞く方もとてもいい表情になります。今年度は、この表情を崩さず、頑張りましよう。